NEWS

The Kagawa Museum

vol.60
香川県立ミュージアム
ニュース
2023　秋・冬号

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

Contents

特集　特別展「映画のレシピ」
調査研究ノート vol.46　共同で取り組む調査研究～松平家近代資料の調査から～
展示室レビュー　第87回香川県美術展覧会　飛躍のきっかけへ
収蔵品紹介　香川県指定有形文化財　青貝微塵塗鞘（あおがい みじんぬりさや）および大小拵（だいしょうこしらえ）
ミュージアムガイダンス vol.48　ユニバーサル・ミュージアムこと始め
れきみんだより　五色台に歴史民俗資料館を建てる

①「金子座（三豊市）」三豊市文書館蔵
②「丸亀日劇（丸亀市）」香川県立文書館蔵
③「世界館（善通寺市）」撮影　宮本隆司
④「グランド劇場（高松市）」辻清州蔵
⑤「香川座（高松市）」香川県立文書館保管
⑥「蓬莱館（丸亀市）」当館蔵
⑦「三本松映劇（東かがわ市）」個人蔵
※いずれも特別展「映画のレシピ」で展示予定

特集

特別展

映画のレシピ

この秋、歴史と地域の2つの視点から映画をとらえる特別展を開催します。初めて日本で映画が上映されたのが明治29年（1896）。その後、香川県でも多くの作品が公開され、人々の身近な存在となっていく映画の足跡を、約160件の作品・資料からたどります。ここでは、展覧会の内容のうち、香川県での映画の歴史や、高松市にあった映画館の歩みについて紹介します。

香川初の映画は「のぞき見タイプ」

明治30年（1897）5月2日付の『香川新報』に、映画上映の広告が掲載されています【図1】。

この広告は、現在確認できる香川県での映画上映に関する最も古い記録です。「電気王エヂソン氏新発明ノ発音活動大写真」という文章から、観客はイヤホンを通して音楽を聴きながら映像をのぞき見る、「キネトフォン」という装置で映画を見たことが分かります【図2】。

現在のような投影タイプの映画上映は、フランスのリュミエール兄弟が明治28年12月28日にパリで一般公開したのが世界初です。この時使われた機器が「シネマトグラフ」で、日本では明治30年2月15日、大阪で初公開されました。3月には東京で、エジソン社の投影タイプ「ヴァイタスコープ」による映画上映も行われ【図3】、その後全国各地で公開されました。香川県においても、同年末までに高松で投影タイプの映画が上映されたようです(註)。

（註）『香川新報』明治31年4月17日付の東座の活動写真という記事で「説明者は昨年当座に於て興行せしものより優れることを誇言し」とあるため、前年には投影タイプの上映があったと考えられます。

映画にでてくる香川県

目玉の松ちゃんの愛称で親しまれた、日本初の映画スター尾上松之助（1875~1926）は、生涯1,000本以上の映画に出演しました【図4】。子ども達が尾上の演じた忍術の真似をする等、人気を博しました。尾上は、大正10年（1921）11月に香川県を訪れ、栗林公園で時代劇「荒木又右衛門」「石井常右衛門」のロケを行っています。観衆が多すぎて一時撮影が中止になるほどで、尾上の人気の高さがうかがえます。残念ながらフィルムは残っておらず、栗林公園がどのシーンで使われたのか確認することはできません。

菊池寛原作「受難華」（牛原虚彦監督）の映画撮影も栗林公園で行われています。雑誌『映画時代』【図5】では、数ページにわたってこの映画の特集記事が掲載されており、撮影時の観衆の多さが記されています。大正15年12月に公開されましたが、こちらも現存フィルムはありません。

「二十四の瞳」（木下惠介監督）は、小豆島で長期ロケをした作品として有名です。アメリカのゴールデングローブ賞外国語映画賞をはじめ、数多くの賞を受賞しました。

ライオンカンと南座

ライオンカンは大正11年8月、高松市百間町に市内5番目の常設映画館として開館しました。戦前には、県内初のトーキー映画館として昭和6年（1931）12月24日から「世界の与太者」（フレッド・ニブロ監督）を公開。その1週間後には日本初のトーキー映画「マダムと女房」（五所平之助監督）が、さらに翌年1月5日からは日本初の字幕付トー

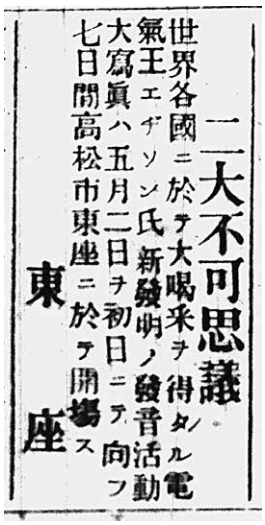


図1

図2

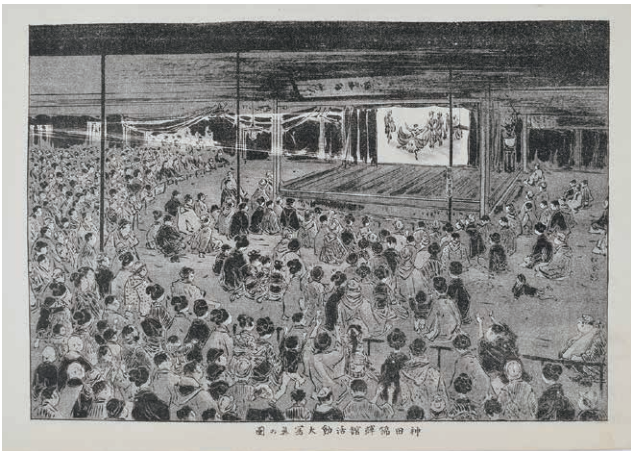


図3　最初期の映画上映の様子

図4　画面右の人物が尾上松之助

図5

図6　多くの世界的名作がライオンカンで上映

図7

図8　映画人気が自転車の数から伝わる

図1：『香川新報』（部分）　明治30年5月2日
図2：キネトフォン（https://ja.wikipedia.org/wiki/キネトスコープ）
図3：「神田錦輝館活動大写真の図」（『風俗画報』138号　明治30年）　個人蔵
図4：絵葉書「奴の小さん」　大正6年　当館蔵
図5：『映画時代』2巻2号　昭和2年　菊池寛記念館蔵
図6：「禁じられた遊び」ポスター　昭和28年日本公開　国立映画アーカイブ蔵、画像提供：川喜多記念映画文化財団（ポスターデザイン　野口久光）
図7：ライオンカン閉館日の写真　平成11年　当館蔵
図8：「南座」　昭和25年　当館蔵（撮影　森本康雄）

キー映画「モロッコ」（ジョゼフ・フォン・スタンバーグ監督）と、ライオンカンでは次々にトーキー映画が公開されました。

昭和20年7月、高松空襲で全壊しますが、1年後に復興。昭和25年からは洋画専門館となりました【図6】。昭和46年9月20日に閉館しボウリング場となるものの、昭和50年3月に再オープンします。平成11年（1999）11月5日に閉館するまで、ライオンカンは香川県を代表する映画館として人々に親しまれてきました【図7】。

南座は、高松市南新町商店街の南端で昭和21年7月29日に開館しました。当初は松竹の歌舞伎や芝居を主としていましたが、昭和25年4月からは松竹の封切映画館となります【図8】。南座は、日本最初の総天然色映画「カルメン故郷に帰る」（木下恵介監督）が香川県で唯一公開された映画館です。しかもこの作品は上映用プリント数が少なかったことから、7日間のみの限定公開でした。

「二十四の瞳」が香川県で最初に公開されたのも南座でした。昭和29年9月22日に南座で公開となり、1週間後に丸亀の蓬莱館、その1週間後に坂出松竹と、南座を皮切りに「二十四の瞳」は県内各地で順次公開されました。多くの作品を封切してきた南座ですが、昭和35年12月頃に閉館しました。

特別展会場では現存最古の日本映画「紅葉狩」（国立映画アーカイブ提供）をはじめ、リュミエール作品や現存する日本最古のアニメーション映画等、多くの貴重な映像もご覧いただけます。また、会場では2000年代以降の県内撮影ロケマップを紹介します。

この特別展が、映画を知る「レシピ（手順書）」となるとともに、地域の歴史や文化に触れる「レシピ（秘訣）」になればと思います。

（主任専門職員　高木 理光）

展覧会情報

映画のレシピ

会　　期：10月7日（土）～11月26日（日）
会　　場：特別展示室、常設展示室4・5
開館時間：9:00～17:00（入館は16:30まで）
休 館 日：月曜日（ただし10月9日は開館）
　　10月10日（火）
観 覧 料：一般800円
　　前売・団体（20名以上）650円
※高校生以下、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方は無料
※菊池寛記念館の観覧券半券提示で団体料金（相互割引）

関連イベント　　無料・要事前申込

講演会「無声映画の“音”の世界」

日本の無声映画上映には、洋楽器と邦楽器の伴奏がありました。その“音”の世界を復元映像も交えて紹介します。

日　　時：10月21日（土）13:30～15:00
講　　師：今田健太郎氏（四天王寺大学人文社会学部日本学科講師）
定　　員：230名（先着順）
申込期間：9月21日（木）～、定員になり次第終了

ほかにも「さぬき映画祭」と連携の映画上映会や、ワークショップ、活動弁士による公演会、担当者によるミュージアムトーク等イベントがたくさん！詳細は、展覧会チラシ、当館ホームページをご覧ください。

調査研究ノートvol.46

共同で取り組む調査研究 ～松平家近代資料の調査から～

当館が収蔵する、高松藩主をつとめた松平家に伝わる資料には、近代（明治時代から昭和20年頃まで）に作成された様々な資料（以下「松平家近代資料」）が多数含まれています。この松平家近代資料を令和3年度から、高松市と共同で調査しています。

共同調査の始まり

松平家近代資料には、高松城が明治23年（1890）陸軍省から松平家に払い下げられる過程や、その後の高松城の整備・利用等について記録した重要な資料が含まれており、一部はこれまで展示等で紹介してきました。しかし、膨大な数にのぼる資料群の全体像を把握できていないことが課題となっていました。

令和3年度に、史跡高松城跡を管理する高松市の担当者から、高松市が史跡の保存・活用を適切に行っていくため、近代における城郭の利用や改変の実態を明らかにする必要があると考えていることを聞きました。

松平家近代資料の全体像を明らかにすることは、その中に含まれる高松城関係の資料を把握し、活用することにつながり、当館と高松市が抱える課題を解決することにもつながると考え、共同で調査に取り組むことになりました。

写真資料の調査

最初に、近代の高松城の変遷を視覚的に把握するため、当館のほか、公益財団法人松平公益会、高松市歴史資料館等が所蔵する写真資料のデータ収集を行いました。併せて、写真の撮影場所や年代を特定するため、参考資料として絵図・地図についてもデータを収集しました。収集したデータについて検討を重ね、令和4年度末には、写真資料（絵葉書・参考図版を含む）90件222点、絵図・地図46点のリストと画像を掲載した調査報告書(註)が高松市から刊行されました【図1】。

高松城の写真がこれだけ多く収録された書籍はなく、今後調査研究を行う際の基礎資料として広く活用されると思われます。

今後の調査

令和5年度からは、膨大な数の文書資料の目録作成や写真撮影の作業を行っています【図2】。文書から読み取れる情報によって、調査報告書に掲載した写真の内容や撮影時期等について、より詳しく解明されていくことが期待できます。また、目録が完成すれば、多くの人が資料の内容を知り、活用できるようになります。

まだまだ時間がかかりますが、作業を通して得られた知見を、広く還元していく活動についても共同で取り組むことができるよう、今後検討していきたいと思います。

（学芸課長　野村 美紀）

（註）『高松松平家歴史資料 近代資料群調査報告書（写真・地図）』（高松市・高松市教育委員会, 2023年）
図書館等で閲覧できます。

図1　写真を多数掲載した報告書

図2　資料の写真撮影

展示室レビュー

第87回香川県美術展覧会　飛躍のきっかけへ

今年の第87回香川県美術展覧会（以下、「県展」）では、第86回展の日本画と洋画の「絵画」への部門統合に続き、「彫刻（立体表現）」を「立体」に変更しました。いずれも従来の部門にとらわれない多様な表現を積極的に受け入れるための取り組みですが、今回は映像を取り入れた作品や立体と絵画を組み合わせた作品等、様々な作品が出品されました。取り組みによって、少しずつ出品作の表現の幅が広がってきています。伝統的なものから、新しいものまで、多様な表現を見ることができるのも県展の面白さではないかと思います。

また、今年度より「若手作家支援プロジェクト」を開始します。これは40歳以下の入賞者を対象として、入賞の翌年度の県展会期中に展示の機会を提供するものです。これから始まるプロジェクトで、現在第88回展での実現に向けて具体化を進めているところです。「若い作家を育てよう」と始まった県展の初心に立ち返る試みとして、若手作家の飛躍のきっかけとなるサポートができればと考えています。

「つくる人もみる人も、より豊かな展覧会に」を目指して今後も取り組んでいきます。

（専門学芸員　鹿間 里奈）

立体部門　展示風景

収蔵品紹介

香川県指定有形文化財

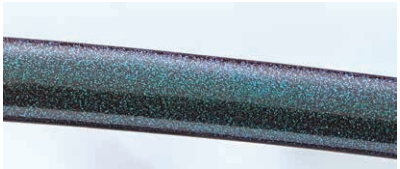
青貝微塵塗鞘および大小拵

刀剣の刀身を覆う外装のことをまとめて拵といい、実用性とともに見た目にも工夫がこらされました。大刀と小刀（刀と脇指）の外装の意匠等を揃えるのも工夫のひとつで、揃えた拵を大小拵といいます。

本作品では、鞘に細かく砕いた貝（鮑貝か夜光貝）が漆で塗りこめられ美しい輝きをみせています。手で握る部分である柄に取り付けられた金具（縁頭・目貫）や小刀に付属する笄（髪を整える道具）、小柄（小さな刃物）は、江戸時代後期の高松藩の御用金工・三谷茂義の作で、高い技術がうかがえます。

本作品は、刀剣にも造詣が深く、香川県の銃砲刀剣類登録審査員を務めた、彫刻家・新田藤太郎氏が所有し、その指導を受けた田尾壱良氏に譲られました。田尾氏も県の登録審査員を長く務め、そのかたわら郷土刀の研究に尽力されました。寄託により当館が保管していましたが、このたび当館に寄贈されたことで、香川県所有の文化財となりました。

（主任専門学芸員　御厨 義道）



大刀鞘（微塵塗の部分）

香川県指定有形文化財
青貝微塵塗鞘および大小拵
※画面下側にみえるのが、笄と小柄

ミュージアムガイダンスvol.48

ユニバーサル・ミュージアムこと始め

展覧会の手話つき解説動画

博物館・美術館で「ユニバーサル・ミュージアム」という言葉を聞いたことはありますか？端的に言えば、「誰もが快適に利用できる博物館・美術館」という意味でしょうか。建築・設備のハード面、展示企画や普及行事といったソフト面で、誰にもやさしい施設であることが理想です。数年前、四国の博物館・美術館の有志が集まり「ユニバーサル・ミュージアム」をテーマに発表や意見交換を行いました。各館それぞれに自館の至らなさを反省したり、他館の活動に学んだり…。当館も聴覚支援に関する発表に勇気づけられ、初めて聴覚支援プログラムを考えることになりました。

誰もが鑑賞を深められるプログラムを目標に、聴覚障害がある方々の支援者と職員が話し合いを重ね、展覧会のあらましを解説する手話つき解説動画（以下、「手話動画」）を製作することになりました。令和3年（2021）春の特別展「空間に生きる画家　猪熊弦一郎」から始め、これまで春・秋の特別展ごとに香川県聴覚障害者福祉センターに製作を委託し、今秋には6件目の手話動画を公開します。（K）

製作現場では

手話動画の撮影は、手話通訳者・撮影者・当館職員の三者で行います。展示担当者が作成した原稿をもとに、通訳者同士で手話での表し方を何度も確認しながら収録します。

手話による会話では、相手の理解度に合わせて表し方を変えたりします。展覧会の解説では、歴史・美術の専門用語や、地域の人にしか分からない地名や人名が出てきます。幅広い人に伝わるように、それらの言葉を分かりやすい表現に言い替える等の工夫が必要です。また、展示作品の寸法も、イメージを共有するために手話で説明します。

手話の動作から気付いたのは、通訳者の表情の移り変わりです。表情といっても単純な「喜怒哀楽」の感情表現ではなく、文章の間に何とも言えない表情や頷（うなず）きがあります。それらが句読点のような役割を果たし、音のないコミュニケーションに抑揚や間（ま）を生み出しています。展覧会解説の手話では「（文面としての）言葉を伝える」よりも「意味を伝える」ことを重視しています。通訳者が展覧会の内容を理解した上で、手話でその意味を伝えてくれています。通訳者の、伝えることに対する熱心な探究の姿から、私たちもより分かりやすい言葉を見つけて伝えることを意識するようになりました。手話動画の存在は、「人に伝える」ということの基本に立ち返るきっかけになっています。（I）

手話動画の撮影風景（モニター画面の原稿を見て手話をする様子）

みんなのミュージアムをめざして

完成した手話動画は当館YouTubeチャンネルで会期中に公開しています。視聴者からは、「手話で解説する動画があると（聴覚に関係なく）分かりやすいので続けてほしい」との意見をいただきました。

いただいた意見を参考にして、画像・手話・音声だけだった動画に字幕を加える等の改良も進めていますが、課題はまだまだあります。また、聴覚、視覚、触覚等、様々な感覚を働かせる鑑賞体験の場を作っていけたらと、アイディアも広がります。

誰もが快適にミュージアムに親しんでもらえるよう、色々な意見や世の中の動きに感覚を開いて、少しずつ取り組んでいきたいと思います。（K）

（主任専門学芸員　窪美 酉嘉子・主任主事　石井 優美）

特別展「空海」の手話動画（4/14～5/21公開）

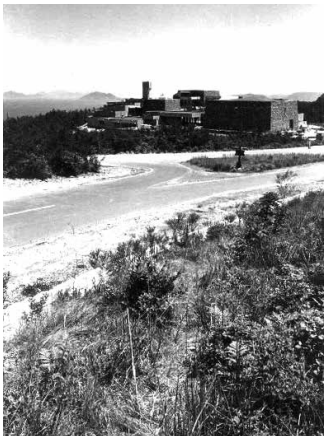
香川県立ミュージアム YouTubeチャンネル

特別展「映画のレシピ」手話動画も会期中公開予定。

香川県立ミュージアム YouTube

五色台に歴史民俗資料館を建てる

瀬戸内海歴史民俗資料館は、昭和48年（1973）11月3日に開館し、今年で50周年を迎えます。開館当時は周囲の木々も低く今より展望が開けていたようですが、なぜ五色台の山上に、瀬戸内海をテーマとする歴史民俗資料館が建てられたのでしょうか。



開館頃の瀬戸内海歴史民俗資料館

五色台の開発

昭和37年に作成された「香川県観光総合開発マスタープラン」では、観光の大衆化や自家用車の普及等が進む中、観光地としての五色台に注目しており、豊かな自然と人文資源があり、高松と坂出を結ぶ広域都市圏内の中央に位置することから極めて将来性に富み、「ミル」より「スル」観光に適すると高く評価しています。

この背景には、五色台から大槌（おおづち）・小槌（こづち）島を通る瀬戸大橋のルート案が有力視されていたことの影響もあったと考えられますが、昭和39年に開発の第一歩となる五色台スカイラインが完成すると、翌年には建築・都市計画家の浅田孝によって「五色台開発マスタープラン」が作られます。それは「人と自然との豊かな対話」をキーワードに、野外でのレクリエーション機能をもつ複数の施設を山上に点在させる案で、同年には宿泊可能な五色台山の家（現 五色台少年自然センター）が建設されます。

その後、昭和45年に県下の中学生が五色台山上で宿泊学習を行う「五色台教育」が始まると、教育プログラムとの連動が実現したことで開発計画も教育を主軸とする方針に修正されます。当館の建設案が浮上したのはちょうどこの頃で、海との関わりの中から人々の暮らしを学ぶ資料館は、瀬戸内海を望む五色台の地に、順次建設される学びの施設の一つとしてその居場所を得ることになりました。

地方歴史民俗資料館の整備

もう一つ、博物館という視点から考えてみましょう。千葉県佐倉市にある国立歴史民俗博物館は昭和58年に開館しますが、その準備は昭和40年代初頭に始まります。国立では初めての歴史系博物館の建設にむけて検討が重ねられ、歴史・民俗資料の調査研究をもとに収集・保管・展示等を行うことや、資料保護を図り、我が国の歴史と民俗についての知識と理解を深めるという目的のほか、調査研究や収集などの機能の充実や分野横断的な研究、地方の歴史民俗博物館と有機的な連携を図ることなどが中間報告で示されます。

これに呼応して、開発で失われる各地の資料の保存・活用のため、文化庁は昭和45年度から新たな国庫補助事業を開始し、地方歴史民俗資料館の建設を推進します。補助先の多くは市町村立館でしたが、同年、ブロック単位における拠点として県立の九州歴史資料館への補助が初めて認められます。これを契機に、香川県内で瀬戸内海という広域の視点を持った県立歴史民俗資料館の構想が立ち上がり、二例目の国の補助事業として開館することになったのです。

開館当時の第1展示室（撮影　高橋克夫）

このような二つの視点が交わって、当館は誕生しました。未開発の台地を切り開いて建てられた館は、後に日本建築学会賞を受賞し、ゼロだった収蔵資料も瀬戸内の各地から集められ、そのうち約6千点が国の重要有形民俗文化財に指定されました。50年の間に根をはり、周囲の景観にも馴染んできたこの場所で、当館はこれからも人が訪れ、地域の歴史やくらし、自然と向き合う場となるような活動を続けていきたいと思っています。

（瀬戸内海歴史民俗資料館長　松岡 明子）

展覧会情報

開館50周年記念展
「歴民コレクション展Ⅰ　瀬戸内を集める」

令和5年10月21日（土）~11月26日（日）
瀬戸内海歴史民俗資料館　第9・10展示室

INFORMATION［2023.9－2024.3］

SCHEDULE

	香川県立ミュージアム						瀬戸内海歴史民俗資料館	
	歴史展示室	常設展示室1	常設展示室2	常設展示室3	常設展示室4・5	特別展示室	テーマ展	瀬戸内ギャラリー
9月	9/4～9/14 臨時休館						9/4～9/15 臨時休館	
10月	かがわ今昔～香川の歴史と文化～	9/15 食を支えた昔の道具 12/10	9/15 あかりとノグチ 12/10	弘法大師空海の生涯と事績	新収蔵品展 9/24	10/7 映画のレシピ 11/26	10/21～11/26 歴民コレクション展Ⅰ 瀬戸内を集める	10/27～11/26 香川県・東京藝術大学連携事業 海は人を愛する「くらしとうみ」展
11月								11/27～12/8 臨時休館
12月	12/11～1/1 年末年始休館							12/16
1月	かがわ今昔～香川の歴史と文化～	1/2 寿ぎの美 1/28	1/2 古都の風景 2/25	弘法大師空海の生涯と事績	1/2～1/21 第70回日本伝統工芸展		12/29～1/3 年末年始休館 1/13 歴民コレクション展Ⅱ 家と人のコトを集める	香川県の職人写真展 2/25
2月		2/3			1/27			
	2/26～3/4 臨時休館						2/26～3/4 臨時休館	
3月		讃岐の武者	3/5 ホンマタカシ		香川の建築アーカイブ		3/24	3/9 伝統と創造 讃岐のり染

特別展「映画のレシピ」関連イベント

学芸講座 無料・要事前申込

会　　場：地下１階研修室
定　　員：72名（先着順）

映画のはじまり～香川県を中心に～

初上映、初開館、初公開作品、初ロケ。香川の映画に関する様々な「初」に注目！

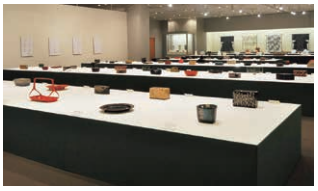
日　　時：10月14日（土）　13:30～15:00
講　　師：高木理光（当館主任専門職員）
申込期間：９月14日（木）～、定員になり次第終了

映画館での火災をふせげ！ 香川の映画館と防火の歴史

戦前の映画館ではしばしば火災が発生。当時の新聞記事を中心に、県内の映画館火災と防火の取り組みの歴史を紹介します。

日　　時：11月19日（日）　13:30～15:00
講　　師：芝野有純（当館学芸員）
申込期間：10月19日（木）～、定員になり次第終了

特別展「第70回 日本伝統工芸展」



先人の有する優れた工芸技術を受け継ぎながら、今日に即した新たなものを生み出す、伝統工芸の粋が集う展覧会。陶芸・染織・漆芸・金工・木竹工・人形・諸工芸の７部門の、重要無形文化財保持者（人間国宝）の作品、受賞作品、四国在住作家の入選作品などを展示します。

会　　期：令和６年１月２日（火）～１月21日（日）　会期中無休
観 覧 料：一般650円、前売・団体520円

今回も展覧会にあわせて講演会・ファミリーワークショップ、ギャラリートーク等を開催予定。詳細は展覧会チラシ、当館ホームページにて12月上旬にお知らせします。

２・３月のイベント

ワークショップ 有料・要事前申込

県立ミュージアムボランティアと「高松張子をつくろう」

香川県の伝統的工芸品・郷土玩具である「高松張子」。２日間で原型づくりから絵付けまで、全ての工程を体験できます。初めての方、大歓迎です。

日　　時：２月17日（土）、18日（日）　13:30～15:30

料金、申込期間、申込方法等の詳細は案内チラシ、当館ホームページにて１月中旬にお知らせします。

学芸講座 無料・要事前申込

会　　場：地下１階研修室
定　　員：72名（先着順）

中世史料からみる讃岐の武者（むしゃ）

室町・戦国時代に活躍を見せた讃岐の武者たち。県内を中心に、古文書から見えてくる彼らの活動を紹介します。

日　　時：２月24日（土）　13:30～15:00
講　　師：藤井俊輔（当館学芸員）
申込期間：１月24日（水）～、定員になり次第終了

ミュージアム・プレゼンテーション2023

当館では、美術、歴史、民俗等について、日々様々な活動が行われています。今年度の活動を通じて考えたことを担当者がリアルにプレゼンします。

日　　時：３月24日（日）　13:30～15:30
講　　師：当館職員、瀬戸内海歴史民俗資料館職員
申込期間：２月24日（土）～、定員になり次第終了

学芸講座の申込方法

電話、「香川県電子申請・届出システム」（※）を利用したインターネットから。

※「香川県電子申請・届出システム」を利用する場合

香川県立ミュージアムホームページ右下の「**関連リンク**」から「**【香川県】電子申請・届出メニューのページへ**」をクリックしてください。

瀬戸内海歴史民俗資料館 無料・要事前申込

れきみんでは開館50周年記念イベントが盛りだくさん！

●れきみんナイトミュージアム ー夜の海とあかりー

日　　時：10月28日（土）・29日（日）
　　各日17:00～20:00
会　　場：瀬戸内海歴史民俗資料館

●開館50周年記念シンポジウム

日　　時：11月３日（金・祝）　13:30～16:30
講　　師：神野善治氏（武蔵野美術大学名誉教授）
　　佐藤卓氏（グラフィックデザイナー）
会　　場：香川県立ミュージアム
　　地下１階講堂

各イベントの詳細・申込方法は9月中旬頃にお知らせする予定です。瀬戸内海歴史民俗資料館ホームページをご覧いただくか、またはお電話にてお問い合せください。

TEL.087-881-4707

『ミュージアムNEWS』れきみん開館50周年記念号を3月頃発行予定！

カフェポット ミュゼ

くつろぎのひとときに、カフェポット ミュゼをご利用ください。「映画のレシピ」展特別メニューもご用意しております。
営業時間：9:00～17:00
（オーダーストップ 16:30）

ミュージアムショップ

1階ミュージアムショップでは、当館オリジナルグッズも販売しております。

営業時間：9:00～17:00

香川県立ミュージアム
〒760-0030 高松市玉藻町5番5号
TEL.087-822-0002（代表）　FAX.087-822-0043
https://www.pref.kagawa.lg.jp/kmuseum/kmuseum/index.html

【分館】瀬戸内海歴史民俗資料館
〒761-8001 高松市亀水町1412-2
TEL.087-881-4707　FAX.087-881-4784
https://www.pref.kagawa.lg.jp/kmuseum/setorekishi/index.html

【分館】香川県文化会館
〒760-0017 高松市番町1丁目10番39号
TEL.087-831-1806　FAX.087-831-1807
https://www.pref.kagawa.lg.jp/kmuseum/kmuseum/bunkakaikan/kfvn.html

日時・内容については変更になる場合があります。最新情報は当館ホームページをご覧ください。

●発行日 令和5年（2023）8月23日　●編集・発行 香川県立ミュージアム　●印刷 株式会社太陽社